

る案件の大型化を進めたことで効率が向上、残業時間なども目立った影響が出ていないことから改めて活況な市場で増収増益を目指すことにした。

根幹の商業施設にホテル、オフィス、行政の施設などを加えた「総合ディスプレイ業への転換が進んでいる」ことから拡大に転じることにした。北海道帯広で閉店した百貨店、藤丸の再生をサポートするなど事業領域も広げており、次期以降も含めて成長戦略に つなげる。

増収増益に上方修正

スペース12月期
連結見通し 案件大型化で効率向上

ディスプレイのスペース（東京）は上期の業績が予想を上回ったことを受けて、12月期連結決算見通しを増収増益に上方修正した。「拡大成長期の計画になる」（佐々木靖浩社長）とする来期からの中期経営計画につなげる。

同社の1～6月連結決算は売上高338億7000万円（前年同期比6・6％増）、営業利益26億720

0億円（18・5％増）となった。衣料品などの専門店の旺盛な出店・改装に応えるなどで業績を伸ばした。

これを受けて当初は減収微増益としていた通期見通しを、売上高655億円（2・0％増）、営業利益41億円（18・3％増）に上方修正した。

当初は社員などへの負荷を懸念して事業拡大を手控える計画だったが、受注す